



す 舞 る

special support smile 舞鶴

発行：京都府立舞鶴支援学校 地域支援センター「トータルサポートセンター（TSC）」

◇ 住所：京都府舞鶴市字堀4の1（〒624-0812） ◇ 電話：0773-78-3133 ◇ FAX：78-3135

検証の学期 3 学期～今年度のまとめ～

今年はまとまった積雪がない冬です。しかし、節分冬なかという言葉がありますのでもう寒さは大丈夫と安心はできません。3学期も1ヶ月が過ぎ、いよいよ今年度のまとめをする時期になってきました。支援地域の特別支援教育のセンター的機能を担うトータルサポートセンター（TSC）では今年度いくつかの改善を行ってきました。率直な御意見をいただき次年度の更なる改善につなげていきたいと考えています。

TSC活動の中間報告

1月末現在で教育相談の延件数は256件、その内新規は113件でした。その内訳は以下のとおりです。

新規相談の校種別割合（％）

就学前	小学校	中学校	高等学校	その他
7	35	14	1	43

新規教育相談の主たる相談内容（％）

学習	生活・コミュニケーション	研修	その他
35	21	1	43

相談の形態は巡回教育相談が58％、来校相談が42％でした。

お役に立ちましたか～新版アセスメント票～

今年度の改善の一つとしてアセスメント票の改訂を行いました。『書きやすい・わかりやすい・つかいやすい』をコンセプトに3様式（就学前用、小・中学校用、高等学校用）とし、記入例でアセスメントの観点を示しました。支援を必要としている子どもには実態と課題を整理する必要があります。TSCのアセスメント票を使い、どんな支援が必要なのか園・校での検討時に御活用ください。



聴き取りに御協力ください

巡回教育相談等がニーズに応じたものになっていたのかTSC活動の検証をしたいと思います。その後具体的に組み込まれたこと、エピソードや変化を電話でお聴きしたいと思います。お手数をおかけしますが今後のよりよい相談活動にするためにも率直に様子を聴かせていただきますようお願いいたします。

～ますます重要『連携』～

先日「舞鶴支援学校地域特別支援連携協議会」を開催しました。この会では舞鶴市の特別支援教育を総合的に推進するために関係機関の連携・協働の強化につなげるための協議を行っています。教育だけでなく医療・保健・福祉・労働機関、保護者で構成し、各機関が行っている支援の情報共有をし、今後必要な連携について意見交換をしています。

連携は協働～コーディネートが重要～

今回は医療機関と労働機関から課題提起をしていただきました。

医療からは、状況共有をする中で医療と学校の連携が進み改善した事例を紹介されました。学校での不適応は学校の状況把握が重要である。困っていることだけでなく上手く行っていることも含めて現状の報告が有ることで状況に応じた必要な治療ができる。相互に連絡を取る中で連携が図れたとのことでした。近年、教育現場だけでは対応しづらい事象が増えてきている中で関係機関との連携が必要となってきています。専門機関につないだらそこにお任せではなく、在籍している学校だからこそできることを主体的に探り、連携を密にしながら取り組むことでそれぞれが持つ専門性が相互に発揮されることを提起していただきました。

労働機関からは舞鶴市の障害者就労の状況を提起していただきました。障害者の就労支援制度の紹介、職業紹介状況を報告されました。企業と就職希望者のマッチングだけでなく、企業の障害者理解、各種の雇用支援策の活用など関係機関との連携をどう図るかが重要である。また、定着のためには事業主や一部の人だけでなく職場全体の理解が何よりも大切であるとのことでした。



他にも、次年度から始まる認定こども園や乳幼児教育センターについて等最新の情報を提供していただきました。

まずはそれぞれの機関が持っている専門性とできることを理解すること。協働してどんな力を引き出そうとするのか。連携のためのコーディネート力がますます重要になってきます。お任せではなく自らの専門性を発揮するための連携の大切さを感じました。

研修ニーズをお寄せください

第2回特別支援教育合同研修会を11月1日に行いました。『読み書きに困難がある子どもの指導～発達視点とつまずきの発見～』をテーマに課題提起の後、中学校区別分散会で子どもの状況を交流しました。参加者からは「就学前教育が教科学習の基礎になる力の育成にとって重要だと改めて気づいた。」「分散会で、発達の視点や移行支援の視点を持って縦のつながりの交流ができてよかった。」等の感想がありました。合同研修会は舞鶴市内の保・幼・小・中・高の指導者が一堂に会し、特別支援教育を学べる場です。ステージ間の交流ができる貴重な場でもあります。次年度の計画にあたり、こんな学びをしたいという研修ニーズを是非お寄せください。疑問や不安を学びで解決し、実践を確かなものにし、園や校種間の連携が深まる機会になればと思います。

